

ゼミ活動報告 「ディベート大会」

八木 駿一

6月22日(日)昨年度に引き続き、神戸にて日本証券業協会主催の証券研究関西学生連



盟ディベート大会が行われました。今年度は3チームが2つ、4チームが1つの3ブロックに我々、宮川ゼミは4チームで分かれて出場し熱い討論を交わしました。優勝の決定方法は設定された共通のテーマに対し肯定と否定の立場になって各チ

ームが計2回のディベート行い、それをオーディエンスが点数評価します。結果はというと...。なんと！3ブロックとも宮川ゼミが見事優勝を果たしました。あれだけの準備、練習を重ねた甲斐があったというものです。

まず、会場に到着し程なくしてからピリピリと緊張した雰囲気の中で開会式が行われました。その後、対戦相手の抽選会をしてブロックごとに別々の部屋に振り分けられました。私のブロックは幸か不幸か同朋の蔵下班と同じになり、(直接対戦することはありませんでしたが)私は手強いライバルが同じになってしまったと少々ビビリ気味でした。1戦目は採点者として他のチームのディベートを拝見していたのですが、やはり他大学のテーマに対するアプローチはどこか新鮮なものを感じられま



した。ゼミ内で何度も意見交換をしていたのでほとんどのアプローチの方法は出し尽くしたつもりだったのですが、他大学の主張を聞いて、自分たちが思いつかなかったことばかりでしたので驚きました。いよいよ2戦目となり私の所属する小嶋班の登場です。私は肯定の立論を発表しました。緊張していなかったといえは嘘になってしまいますが、今までの練習試合を含めても最高の出来だったと自負しております。これも偏に厳しいお言葉で指導してくださった宮川先生と先輩方、ともに切磋琢磨した同期のお陰です。その後反対尋問・反

駁・最終弁論と進めていきましたが、やはり、昨年度勝ち抜いてきた清水先輩、小嶋先輩の相手の主張に対する切り返しのカウンターといったら、敵でなくてよかったと思うほど心強いものでした。4戦目は否定側の主張を行い、同期の渡辺の堂々たる立論から始まり、清水先輩の怒涛の最終弁論によって私たちの長い長い1日は締めくくられるのでした。清水先輩の最終弁論は少し怒涛が過ぎたと思いますが（笑）。

4期生が宮川ゼミに入ってから体験した大きな前回のイベントのプレゼン大会で学んだことが、相手に自分の伝えたいことをわかりやすくアウトプットする“描写力”と“科学的思考”であるとするならば今回のディベート大会で学んだことは、相手の主張を科学的思考に基づいて論理的に理解し、論理的に反論する“論理力”とディベートで必要とされ、前述の一連の動作を素早く行う“瞬発力”だったのではないのでしょうか。これらは今後のゼミ活動だけでなく私たちが社会に出てからも非常に強い武器となります。描写力、科学的思考、論理力、瞬発力に更なる磨きをかけるとともに、今年大きく見えた先輩方の背中よりも、もっと大きな背中を来年入ってくるであろう5期生に見せられるよう成長します。

最後となってしまいましたが、宮川先生、3期生の先輩方ありがとうございました。

